

平成28年度米子工業高等専門学校評議員会議事要旨

1. 日 時 平成29年 3月 9日(木) 13:30～15:30

2. 場 所 米子コンベンションセンター 第2会議室

3. 出席者 【委員】

河田 康志（議長）（鳥取大学工学部長）

辻 啓介（広島商船高等専門学校長）

中山 孝一（公益財団法人 鳥取県産業振興機構理事長）

森脇 孝（米子工業高等専門学校振興協力会会長）

角 正樹（NTTデータユニバーシティ取締役・研修事業部長）

矢末 誠（米子工業高等専門学校同窓会長）

細田 芳史（米子工業高等専門学校後援会長）

【米子工業高等専門学校】

氷室 昭三（校長）

大塚 茂（校長補佐（企画））

香川 律（校長補佐（国際交流））

竹中 敦司（校長補佐（教務））

森田 典幸（校長補佐（学生））

新田 陽一（校長補佐（寮務））

山口 顕司（校長補佐（専攻科））

河野 清尊（校長補佐（社会連携））

東 善和（事務部長）

吉田 啓二（総務課長）

福間 久光（学生課長）

【説明者】

細田 智久（校長補佐（企画）補）

中山 繁生（将来構想検討委員会副委員長）

4. 欠席者 なし

5. テーマ

○平成28年度自己点検・評価について

○平成29年度概算要求『“KOSEN（高専）4.0”イニシアティブ』への取り組みについて

○その他

6. 校長挨拶

開会にあたり校長から、今の米子高専を取り巻く現状として

- 主に
- ・原級留置率及び退学率問題
 - ・就職及び進学率、平成29年度入学志願者の状況
 - ・企業及び大学アンケートから見える育成すべき技術者像
 - ・鳥取大学医学部との包括連携協力協定締結による医工連携の推進
 - ・リベラルアーツ教育の充実 等

についての話の後、今回の評議員会では「平成28年度自己点検・評価について」及び「平成29年度概算要求『“KOSEN（高専）4.0” イニシアティブ』への取り組みについて」の報告をする旨の説明があり挨拶とした。

7. 出席者自己紹介及び配布資料確認

8. 議長選出

事務部長（司会）から、評議員会の会長を委員の互選によって選出することとなっているが、例年、鳥取大学工学部長に会長として議事の進行をお願いしている経緯を踏まえて、今年も鳥取大学工学部長の河田先生に会長をお願いしたい旨提案があり、異議なしで河田先生を会長に選出した。

9. 議事

(1) 平成28年度自己点検・評価について

大塚校長補佐（企画）から「平成28年度自己点検・評価報告」についての概要説明があり、続いて細田校長補佐（企画）補から資料に基づき報告があった。

【質疑応答・意見交換】

各委員から以下の意見が出された。

- ・企業・大学アンケートの結果を見ると、「優れている点」と「養成・充実を必要とする点」の両方の上位に「コミュニケーション能力」「基礎学力」があり、相まみえている。
- ・コンテスト等で受賞している学生も多数おり、プレゼンテーション・コミュニケーション能力が高いと想像できるが、そうでない学生をいかに底上げしていくかが重要である。
- ・「JABEE」、「リベラルアーツ」など素晴らしい取り組みである。
- ・情報セキュリティの強化は必要で、様々な方法で取り組んでいる様子が見える。
- ・学生を集めることに関して「広域化」とあり、工業高専として県境がある中でどこまでどのように進めていくのか興味深い。その点で「医工連携」という他の高専にない取り組みは、「広域化」に対応する良いテーマである。
- ・JABEE建築学プログラムの科目関連表に関し、企業側から見ると中央の「d」の部

分は入社3年で再教育できるが、重要なのは「b」や「e」「f」「g」「h」「i」の部分で企業に入ってから再教育しても手遅れであり、学生時代に教育するシステムが必要である。

- ・中学生人口が減少する中で志願者確保は重要な課題である。ある大学の取り組みで女子学生の人気を得たことが全体的な志願者数アップにつながったという事例から見ても、女子学生の獲得は良い効果を生む。

- ・中小企業では、専門、専門外のことを問わず何でも解決しなければならず、問題解決能力を身に付けさす5年間の高専教育を高く評価している。

- ・現在、小中学校では、子どもたちの付き合う範囲が狭く、コミュニケーションが数人単位でしかとれないことが問題視されている。昔は、生活の中で自然に身に着いていた部分であるが、高専でも同様であるように感じており、改善への取り組みが必要である。

- ・志願者確保にあたっては、中学生のみならず小学生に対しても科学やものづくりへ興味を持たすような機会の提供を継続して行う必要がある。

(2) 平成29年度概算要求『“KOSEN（高専）4.0” イニシアティブ』への取り組みについて
中山将来構想検討委員会副委員長から資料に基づき報告があった。

【質疑応答】

各委員から以下の意見が出された。

- ・「リベラルアーツ」は、学生にとって将来どう役に立つのかを具体的に示してゴールを見せてやらないとその大切さが分からない。どう体感させ納得させるかが重要である。

- ・「リベラルアーツ」は、学生にとって非常に大切なものであり、また、「医工連携」も米子高専ならではの取り組みであると思う。

- ・「医工連携」に関する実績を「高専の実績」と捉えてもらえるようにしないといけない。そのためにも米子高専主導の形で推進していく必要がある。

- ・「医工連携」の申請書の中で連携予定機関が県内でとどまっている。県内に限らず県境を越えたネットワークを活用すれば更なる効果が見込めると思う。

(3) その他

なし

10. 校長挨拶

閉会にあたり校長から、今後は『“KOSEN（高専）4.0” イニシアティブ』で申請した2テーマを中心とした取り組みを進めていく中で、今回いただいた貴重なご意見を参考に地域の活性化に寄与し、米子高専としての役割を果たしていきたい旨の挨拶があり閉会となった。